

「県民と県議会との意見交換会」 大槌町会場 の概要

- [日 時] 令和4年4月22日（金）13：00～15：04
[場 所] 大槌町文化交流センター 多目的ホール
[テーマ] 安心して子どもを生み育てられる環境づくりについて
[参加者] （7名）
金 暁 子（大船渡市在住）
神 谷 未 生（大槌町在住）
内 舘 真知子（山田町在住）
悦 渕 須美子（県立釜石病院 主任看護師兼主任助産師）
柳 下 啓 子（特定非営利活動法人きらきらぼし 代表理事）
金 濱 幹 也（陸前高田市立小友保育所 所長）
三 浦 政 宏（岩泉町健康推進課 課長）
- [出席議員]（9名）
ハクセル美穂子議員（座長）、名須川晋議員、佐藤ケイ子議員、千葉秀幸議員、岩崎友一議員、米内紘正議員、小野共議員、千葉盛議員、千田美津子議員

◆ 参加者自己紹介及び現在の活動状況等について

○金さん

小学2年生の双子がおり、大船渡市子ども・子育て会議の委員として活動している。多胎児は切迫早産が多いと知っていたが、実際に子どもたちが早めに生まれたため、実家がある新潟県の病院のNICUへ入院した。実家から近いところに病院があり、毎日母乳を届けに通った。

双子育児の話を周りに聞くと、大船渡市の病院にはNICUがないため、盛岡市の病院のNICUに入院した子どもと離れ離れになるということで、1時間半かけて通うのは大変だと感じた。乳幼児の育児期にもっと多胎児サポートがあればいいと日々感じている。

○神谷さん

名古屋市出身で、東日本大震災津波の復興支援をきっかけに大槌町に来て、地元の男性と出会い、1児の育児をしている。

一般社団法人おらが大槌夢広場の代表として、本日の会場である大槌町文化交流センターの施設管理も行っている。施設は火曜日以外夜10時まで開いていて、何かあったら対応する必要があるが、子どもを日曜日に預けられるところがないため、知人に預けるなどしてきた。

高齢出産であったため、宮古市の病院に通った。臨月に週1回、40分自分で車を運転して通院するのが不安であり、安心して出産できるとは言いがたい。当時は復興の最中であり、ママ友というつながりもなく、出産に関する情報がなかったため、ネットを頼り、県立病院のホームページで情報収集を行っていた。

大槌町は子どもが遊ぶ環境が整っておらず、公園がないため、隣の釜石市、宮古市、大船渡市に行っている。盛岡市近郊と異なり、屋内で遊べる施設がない。名古屋市の実家の方が子どもを公園でのびのび遊ばせることができる。

○内舘さん

大分県出身で、山田町で1歳と3歳の子を育てている。山田町に来て4年になる。やはり寒いですが、

思ったほど雪が降らないと感じている。こちらに来て思ったのは、まず何も知らない土地で、頼れるのは夫の親だけであり、山田町の赤ちゃん教室などの事業に声をかけてもらい、参加したことで友達ができた。ただ、参加しているのは地元の人ではなく、嫁いできた人、自衛隊の人など、いずれ転勤していなくなってしまう方々であり、地元の人と友達になる機会がとても少ないと感じている。

先ほどおっしゃったように、小さい子を遊ばせる場所はとても少ないと思う。段差があったり、大きい公園には小中学生がいて遠慮したりして、小さな子どもが思い切り走れるところがないため、宮古市や大槌町、釜石市に足を延ばすのが残念である。

○悦瀨さん

成人式を迎えた子、中学3年生、小学4年生の3人の男の子を育てている。本日は県立釜石病院の助産師として、県立釜石病院の取り組みについて紹介する。

県立釜石病院では、令和3年10月から分娩休止となった。現在は、産婦人科外来診察のほかに、妊婦健診、助産師外来、産後健診などを実施している。助産師外来では、健診で妊婦の不安の軽減や家族関係や精神的な支援を行っている。特に不安が強い場合や支援が必要な場合は、各自治体の保健師と連絡を取りながら支援をしている。分娩休止当初は通院等に不安を感じていた妊婦の方々に、健診の流れ、出産場所について説明し、その都度健診で対応していることで、苦情やトラブルはあまり聞かれない。家族の協力のもと通院されているようである。夜間や休日の妊娠に関する不安の相談には、24時間助産師が対応できるようにしており、相談内容により、必要時、緊急時には県立大船渡病院に繋いでいる。また、安心して妊娠・出産・子育てに臨めるように、釜石保健所、釜石市、大槌町と協働で冊子を作成して配布している。釜石市、大槌町と緊急時に備えた研修を実施している。令和3年10月から県立釜石病院で産後ケアを実施しており、お母さんと1歳までの赤ちゃんが利用でき、助産師が担当となって育児相談をしており、現在まで7名の利用があった。コロナ禍の中、日中赤ちゃんと2人きりで過ごすお母さんもいることから、不安を話したり、何気ない会話をしたりすることが大切だと感じている。

○柳下さん

4人の子どもを育てながら22年間、保育士をしてきた。長男が高等学校を卒業する最後の1年は、子どものそばにしようと考え退職したが、さまざまな施設から保育士不足の声がかかり、児童館などで保育をしてきた。その後、社会福祉協議会で、当時、働いていないお母さんが簡単に子どもを預けられるところがまだなかったころから、一時預かりを行い、約8年、延べ1,000人以上の子どもを預かってきた。その後、釜石市の待機児童は大分解消されてきたものの、待機児童がまだいるということで、2019年、NPO法人を立ち上げ、小規模B型という、半分が保育士で、半分は釜石市で実施する研修を受けた者が保育する保育園を運営している。ほかに、民生委員、児童委員として活動している。

園は12人定員で、2歳になると大きい保育園に行くので、今は3人の保育と一時預かりで毎日かわるがわる子どもたちをみている。

○金濱さん

4月から陸前高田市立小友保育所長を務めており、異動前は気仙保育所長を3年務めてきた。保育士の資格があるわけではないが、陸前高田市に入庁当初、児童福祉に5年携わってきた。

陸前高田市では、保育士不足が課題である。延長保育や休日保育、病後児保育など、保育のニーズはさまざま出てきており、延長保育、病後児保育だけは実施できているものの、休日保育や一般の方へ施設を貸すことの提案を受けているが、これらは検討段階である。

子どもの総数は減っているが、ゼロ歳児、未満児の保育がふえていて、保育士が足りない。保育士が

いればさまざまな事業ができるが、なかなか保護者の要望を全てかなえることは難しく、板挟みになっている。本日の話を陸前高田市に持ち帰って今後の事業につなげたい。

○三浦さん

4月から、岩泉町の健康推進課に所属している。

子どもは大学生で、小さい子の子育てからは離れているが、当時は、産科がないため県立中央病院に毎月のように妻を送迎するなどしてきた。子育て中に大災害があり、平成28年台風10号の被害もあったが、おかげ様で多方面の支援により町はほとんど復旧したが、一部の河川改修はあと2、3年かかるところである。

健康推進課を紹介すると、母子保健、子育て支援、町民の健診、高齢者の介護保険の業務があり、これに加え新型コロナウイルスのワクチン担当でもある。

岩泉町の人口は、国勢調査によると2010年に約10,800人だったものが2020年には8,726人と2割減になっていて、厳しい状況である。県内でも人口減少率が高い町である。

一方、保健福祉年報によると、令和元年の合計特殊出生率は、当町は1.99となっており、岩手県全体では1.53で圏域別で宮古圏内は1.82となっている。なぜかは不明であるが、高くなっている。

もともと、母数が少ないので出生人数としては年間50人前後である。

岩泉町のまちづくりの課題は、人口減少対策、定住化であり、課題解決は難しい。何とか子育て支援施策を展開し、定住人口の増加を進めていきたい。

◆ 意見交換

○米内紘正議員

市町村、県、国で、人口減少対策、子育て支援の行政サービスがいろいろ展開されているが、情報発信について伺いたい。

皆さんの話をお聞きして、窓口が見つからないということがあったので、何をメインに行政からの情報を受け取っているか、偏りはないか、今後どういった発信があると受け取りやすいか、というところをお聞きしたい。

〔回答：金さん〕

子育て支援センターに行ってみるといいよとリストを渡されたことがきっかけである。初めは行く勇気がなく行きづらかったが、子どもの健診でたまたま出会った方に誘われて、また、親戚から情報を得て、行ってみたらさまざまな情報が入るようになった。子どもが入園するまでは、子育てサイトで調べたり、子育て支援センターの張り紙等で情報収集したりしてきた。今では、保育園や小学校からもらう情報が目に入るが多くなった。

〔回答：神谷さん〕

情報の有無には偏りがある。1か月児健診の時には、だいたい知り合い同士が集まって口コミで情報を得ているようだが、名古屋市から嫁いできてその輪に入る勇気はなく、難しかった。ホームページでも情報が得られるのはありがたいが、ちょっと相談したいということもあるで、LINEで相談できるといい。

分かりづらいのは、行政の区分である。事業によって釜石市のお母さん向け、大槌町のお母さん向け、という区分があるが、道路はつながっているので、隔たりなく双方つながってやれるといい。お母さん同士が合う、合わないというのものもあるから、既存のものでよいので連携して作ってもらえるとありがたい。

〔回答：内館さん〕

3歳の子を出産した時には、各乳幼児健診時に情報をいただいた。また、出産前の赤ちゃん教室などで町の助産師から情報を得てきた。1歳の子を出産した時には、母子手帳に挟める大きさの子育て支援情報のパンフレットをいただいた。町内で行っている子育て支援情報や保育園、放課後児童クラブの一覧が掲載され、見通しをもった子育てができるようになっており、これを参考にしている。

〔回答：悦瀨さん〕

県立釜石病院では、外来診察や健診を主に行っているのでホームページに載せていたり、電話で相談いただいたりしているが、ホームページはなかなか随時更新していないところもある。また、出産したあと、インターネットを見て電話で問い合わせ意見をいただいたりしている。釜石市と連携して対応したりしている。

〔回答：柳下さん〕

保護者とLINEでグループを作って、一日の活動を動画で見えたり、大事な連絡を一斉配信したりしている。

〔回答：金濱さん〕

陸前高田市の公立保育所では、陸前高田市のホームページで情報発信している。LINEでの相談対応はまだ実施していない。支援センター併設の保育園では、センターの支援員の先生が自宅訪問して声かけしている。情報発信については、保育所ではお手紙が中心であることから、これからICT化について進めていきたい。

〔回答：三浦さん〕

岩泉町では、ホームページや広報紙での情報発信が一般的である。また、出生届、転入届を受理する際に、事業や問い合わせ先の一覧を掲載した紙の子育て支援パンフレットを配っている。

○千田美津子議員

市町村の施策はそれぞれが競い合い、隣町同士で施策のレベルが違うということがある中で、行政関係や保育所の運営について、連携という部分を考えていかなければならないと思うが、どのように進めたらよいか、また、現在取り組んでいることがあれば伺いたい。

子育て中の皆さんには、子育て環境をアップするために岩手県に頑張ってもらいたいことを伺いたい。

〔回答：三浦さん〕

分野は違うが、東日本大震災津波以降、観光部門で各市町村が同じような公共施設を競ってつくっているという状況があったと思う。この公共施設を、人口減少時代の中、10年後、20年後どうするのか、三陸沿岸で観光連携の組織を立ち上げて話し合った経緯があったが、連携したくても、なかなかうまくいかない部分も正直あると思う。

岩泉町でも、町外や県外から来ている方で、地元の方となじめない、うまくいかない面もあると担当保健師から聞いたことがある。

人口減少時代の中で、せめて医療圏や沿岸地域で連携していくべきだと改めて感じたことから、近隣市町村の担当課と情報共有しながら前に進めていけたらと思う。

〔回答：金濱さん〕

保育園関係では、陸前高田市、大船渡市、住田町の2市1町で保育の共同会議があり、情報共有は

しているが、例えば、保育園整備などの大きな取り組みについては、陸前高田市で1園ふやしたから、大船渡市で1園減らして調整するような、行政同士での広域的な取り組みはまだまできていない。

また、大船渡市での取り組みが成功していることを受けて、陸前高田市でもやらなければということと初めて動くことが多いと感じている。

〔回答：柳下さん〕

3月まで預かっていたお子さんで、両親の居住地と勤務地が異なる場合でも、市町村からの給付費はきちんと支払われていて、そういった部分は連携されていると感じた。

また、一時預かりについて、北上市在住の方が、釜石市に勤務するため預かってほしいという時も、受け入れた。

〔回答：悦淵さん〕

釜石市と大槌町は医療圏が同じであるため、釜石市の保健師、大槌町の保健師、県立釜石病院と県立大船渡病院とのカンファレンスを通して、支援が必要な人の情報共有を行い、産後の支援についても保健師に来ていただいて、連携をとっている。

また、昨年10月から始めた産後ケアでは、県立釜石病院の事業として行っていたが、4月からは、釜石市と大槌町との委託事業になる予定でお互いに協議を進めている。

〔回答：内館さん〕

山田町は、小学校が統廃合になって、空いている学校がたくさんある。私の地元でも、少子化で多くの学校が廃校になっていて、老朽化している学校は取り壊しているが、そのほかの学校は、企業や介護施設などが活用している。山田町でも廃校を活用して、子どもたちが屋内で遊べる施設があると冬の時期は助かると思う。

また、山田町は、保育園の数が人口の割に多いと感じた。山田町の中心部にある保育園は、どこも園庭が狭くて、子どもたちが走り回れる環境ではないと感じる。少子化なので、保育園を減らし、その分園庭が広い保育園にしてもらえればと思う。

〔回答：神谷さん〕

日曜日の保育について、全部の保育園が開いている必要はなく、大槌町には私立のこども園が6つあるが、それぞれが持ち回りで開けていけば、6週間に1回でいいということになる。私立だと、自分の園の運営が先立つと思うが、そこに行政が入ることによって、体制を整えるお手伝いはできると思う。

例えば、日曜日だけなら働ける保育士や、子育て中で保育士の仕事から離れているが、自分の子どもも連れてきてもいいのであれば働ける保育士がいるかもしれないので、何かしら探っていけばやりようがあると思う。現場は、日々の運営で手一杯なため、行政の力を借りるということで、連携の体制が構築できるのではと思う。

また、以前、釜石市に産科がなくなるときの意見交換会に参加したが、大槌町のお母さんの半分以上は、県立宮古病院に通っているという事実があった。私自身も宮古市のほうが通いやすいと感じるし、出産に必要なものが大槌町では買えないが、宮古市では買い物をして帰ってこれて非常に便利である。大船渡市に行くと別の場所に行かなければならないし、さらには陸前高田市まで足を延ばさなければならない状況にある。

私は、最初から大船渡市の病院を全く案内されない状況で宮古市の病院を紹介されたので、大槌町の保健師にも会っておらず、せっかくの制度から外れてしまうということがあり得る。大槌町では、釜石市と大槌町、必要であれば県立大船渡病院という行政の縛りがあるが、事情に沿わない方がたく

さんいる中で、せめてこの区域内であれば、宮古市とも情報共有をするような体制をとっていただきたいと思う。

〔回答：金さん〕

岩手県は寒い割に、屋内で遊ぶ施設が少ないと思う。一戸町にいわて子どもの森があるが、こういうものが、県南地域や沿岸地域にもあればと感じた。車があれば、遊ぶ場所を求めているいろいろな地域に行くと思うが、沿岸地域から一戸町に行くのは旅行になってしまい難しいため、近隣の地域に1つでもいいので、市町村の垣根を越えて連携していただければと思った。

また、先ほども多胎児に関してのサポートがもう少しあればというお話をしたが、出産後、双子の情報はなかなかなく、教えてくれる人もいない。病院でも情報が得られず、インターネットで調べたが、他県ではNPO法人などの多胎児支援の団体があるようだ。

ほかにも、他県の市町村では、多胎児支援で、ファミリーサポートが無料で利用できるというものがあった。経済的な支援も必要だが、誰の手でもいいから助けてほしいと思っている人はいると思う。私は、夫の両親に助けてもらったが、身近に助けてくれる人がいない人は、ファミリーサポートを頻繁に利用しているという話を聞いて、行政側からの支援があってもいいのではと感じた。

○名須川晋議員

県立釜石病院で昨年10月から始まった産後ケアについて、利用状況を伺いたい。

また、NPO法人まんまるママいわての、花巻市や北上市の産後ケア事業は利用回数の制限があるが、回数制限などはあるのか。

〔回答：悦瀨さん〕

県立釜石病院の産後ケアは、利用回数や居住地の制限も特になく、病院独自で始めたもの。昨年10月から始めて、特に大槌町の方が多かったが、釜石市や花巻市の方など7名の利用があった。

4月からは、釜石市と大槌町の委託事業になる予定だが、花巻市や北上市と同じように利用回数を設定する予定である。

○名須川晋議員

これから産後ケア事業のPRをしていかなければならないと思うが、どのように考えているか。

〔回答：悦瀨さん〕

委託事業になると、市町村からPRしていただく形になると思う。母子手帳の発行の際や、健診を通じてのPRに取り組んでいただくよう市町村に働きかけていく。

○名須川晋議員

NPO法人まんまるママいわては、大槌町でも産後ケア事業を受託している。県に要望などがあれば伺いたい。

〔回答：神谷さん〕

私自身は活用したことがなく、事業にも直接かかわってはいないが、代表の方とは友達だったこともあり事業については知っていたため、母乳ケアサロンを探していた方を案内したことがあった。大槌町近辺に母乳ケアサロンがあるという情報を入手する手段がないと感じた。

また、NPO法人まんまるママいわてはいろいろな地域で事業を行っていることから、大槌町に来てもらえる回数に制限があり、次のサロンの開設までに期間が空いてしまう。母乳で困っている人は、

今すぐに利用したい場合が多いため、次の開設まで待てないという状況である。

○千葉盛議員

子どもの年代が違ったり、市町村によって状況は違うと思うが、地域の共通課題として、少子化が進む中、学校の統廃合を進めていき、大勢の子どもたちが一つに集まるようにして、それに合わせた移動手段を考えていくことがよいのか、考えをお聞かせ願いたい。

〔回答：内館さん〕

私の地元は小さい町だったこともあり、通っていた母校は、統廃合によってなくなってしまった。小さいところは小さいなりに、先輩後輩関係なく、家族のような、保育園から高等学校までメンバーが変わらないというような、和気あいあいとした感じだが、団体競技の部活になると、人数が集まらず、隣の学校から借りたり、一緒にやらなくてはいけない状況であった。

クラスの人数が多いという経験はないが、夫の話を知ると、1学年10クラスだったという話もあり、それだと多いと思うが、今の人口だと一つでもいいと思う。

〔回答：神谷さん〕

保育園、小学校、中学校までは、少人数のものが数多くあった方がいいと思う。生徒や家庭のニーズが多様化している中で、各学校や先生が特色を出すことで、この学校ではうまくいかないという生徒が、別の学校へ行くという選択肢ができてくる。大槌町立大槌学園では、友達関係がうまくいかなかったときに、転校する先がないため、義務教育という場をどうやって確保していくのかという問題がある。近隣に小さい学校がたくさんあることで、選択肢を広げていけるし、不登校児の悩みを抱えている家庭に対して、市町村を越える引っ越しをできるだけ避けてあげることもできると思う。

最近では、バス通学が多くなっているが、大槌町は肥満児の率が高くなっている。徒歩での登下校の時間で育まれる人間関係や、地域への愛着などがあると思うので、通える範囲内に学校があるといいと思う。

部活動の問題については、野球やサッカーがやりたいのにやれないというのはかわいそうなので、各市町村にある教育委員会が調整できる部分はあると思う。

〔回答：金さん〕

小さい学校は小さい学校なりにいいところがあるので、無理に大きい学校にする必要はないと思う。子どもによって、合う、合わないもあるし、ニーズもあると思う。

部活動について、娘が通っている小学校で、高学年が参加している伝統のある音楽のクラブがあるが、人数が減ってきていて、指導者が見つからないといった問題もあり、廃止する方向になっている状況である。

どの地域やどの種類のクラブ活動でも同じだが、人数や指導者の問題などがあるので、無理にその学校だけでやらずに、地域で何校か一緒になって、クラブ活動をしていくことがいいと思う。

○佐藤ケイ子議員

県内全体で助産師が不足している状況であるが、県立釜石病院では助産師が中心にならない中、助産師の充足状況やどのような働き方をしているのかお聞きしたい。

〔回答：悦瀨さん〕

県立釜石病院では、分娩休止になってしまったので、定期人事異動で他の県立病院に異動になったり、他の仕事に就いた職員もいた。

お産には関われないが、妊婦健診や産後ケアを通して、出産前後で関わっていただければと思う。

○佐藤ケイ子議員

保育士の確保が大変だという一方で待機児童がなくなっている。今後の小規模保育所の経営が心配になる中、保育士確保の問題点や今後の見通しについてお聞きしたい。

〔回答：柳下さん〕

1年に数回、園長会議があり、釜石市内の園長が集まって情報交換をしているが、その場でも保育士が不足しているという声がある。

少子化の中で、今後経営が大変になっていくと感じていて、当園では、常勤職員が2名であとはパートの職員であるが、今年はパート職員の勤務時間を1時間短くするなど協力してもらっている。

また、釜石市の出生数が減っている中で、保育園やこども園の定員が多く、定員割れしている状況である。

〔回答：金濱さん〕

保育士の確保は喫緊の課題だと思っている。今年度も、保育士がいないために、別の保育所に移ってもらわなければならない事例が数例あった。車で通える距離であったため、保護者の了解を得て異動してもらった。

陸前高田市内では保育所が8施設あるが、1歳児の途中入所ができる施設が2施設しかない状況である。2施設以外の施設は、定数には余裕があるが、保育士がいないために、0歳児や1歳児を受け入れられない状況である。

陸前高田市でも支援員の拡充を進めているが、支援員になってもすぐに保育に携わってもらえるというわけではない。また、保育士のOBについても必要に応じて対応してもらえるわけではない。

公立の保育所であれば正職員を採用すればある程度解決すると思うが、陸前高田市では、3施設のうち1施設は民営化を進める方向で動いている。そうすると公立の保育所としては、保育士の確保がさらに難しくなると思う。

◆ 感想

○小野共議員

今日の話聞いて、市町村間の広域的な連携が一つの大きい論点だと感じた。人口減少が進み、予算が削られていく中で、頭を使って、集中、選択をして予算運営をしなければならぬとつくづく感じた。

釜石市や大槌町の職員と話をする、施策の違いが人口の移動を生んでしまうのではないかと感じていた。施策の違いによって釜石市の人が大槌町へ、大槌町の人釜石市へ行ってしまふ。行政の人が心配していたが、今日の話聞いて心にささった。

○岩崎友一議員

周産期の医療体制の問題などさまざまなご意見をいただき、そのとおりで感じている。

こども園の保育料無償化の有無によって、人口移動が起きているという話をよく聞く。行政の施策の違いで人口移動が起きているのはよろしくない。岩手県、さらには、日本全体で均一であればいいと思う。

今回のテーマである、安心して子どもを生み育てられる環境づくりについて、これだけやればいいのかというものはないため、さまざまなニーズに応えられるように、重要性、緊急性、効率性などをしっかり考えながら、環境づくりのさまざまな声に応えていけるよう努力をしてみたい。

○千葉秀幸議員

県立釜石病院で分娩休止となったが、私の地元の奥州市でも年間600件弱のお産がある中で、約150件の分娩を受け入れていた個人病院が受け入れを停止することになり、そこをどう請け負っていくかという状況で、北部であれば県立中部病院や北上済生会病院、南部であれば県立磐井病院で対応する形がとられている。

タクシー助成などの支援はあるが、それはハード面の対策である。時間の都合上、質問することはできなかったが、一人目を出産するときの不安などに対する心のケアについて、どのような対策を講じていくべきか、きょういただいたご意見を県議会でも議論し、少しでも前に進められるように取り組んでいきたいと思う。

○内舘さん

いろいろな意見や要望を話したが、私自身、山田町の皆さんに救われて、山田町で生活してこられた。頼れる人が夫の両親しかいない中で、山田町の助産師や保健師にたくさん支援していただいた。

また、山田町には、妊産婦が集まれる子育てサロンがあり、離乳食や母乳ケアの相談に対応いただける環境があり、県外からきた人間にとってはとてもありがたい場所だった。

○ハクセル美穂子座長

御忌憚のない意見をいただき、沿岸地域と内陸地域の状況が違う中で、どれが本当にやるべきことなのか、ヒントをいただけた。広域連携はそれこそ県がやるべきことの一つになってくると思うので、子育て中の方、これから子育てをする方にとって、どのような仕組みが使い勝手の良いものになるのか、皆さんからいただいた意見を県議会でも議論して政策につなげていきたいと思う。

お忙しいところ御参加いただいたことに感謝を申し上げ、閉会とさせていただきます。